

幼児の家庭刺激スクリーニング 用質問項目に関する研究

上田 礼子

要約：都市化にともなって価値観が多様化し、子どもの発達上必ずしも好ましくない家庭が出現してきている。本研究は養育環境としてリスクの高い家庭を見つけ支援に結びつける一つの手がかりとなる質問項目の検討を行った。その結果 これらの項目はかなり実用性の高いことが明らかになった。

見出し語：幼児の家庭環境、スクリーニング用質問項目、JHSQ

研究目的：本研究はこれまで著者らが実施してきた幼児の家庭刺激に関する時代差及び地域差の検討から得られた5つの質問項目が養育環境上リスクの高い家庭を見つけるのに役立つか否かを知ることである。

研究対象と方法：調査対象は1988年7月～12月に①東京都K保健相談所管内の3歳児健診に来所した母親と子ども497人、および②同期間にK保健相談所を含む4つの保健所で実施された心理相談に訪れた母親と子どもである。

方法は質問紙法と面接法である。3歳児健診来所者には全員に5つの項目(表1)を含む最近の養育行動 および背景などに関する質問紙

都立医療技術短期大学

の記入を依頼した。心理相談来談者に対しては子どもにJDDSTを実施して発達状態を評価し、母親にはJHSQ(日本版家庭環境評価法)の記入を求めて家庭養育環境を評価した。分析にあたっては①養育行動に関する5項目とJHSQとの関係、②5項目と被検児の健康や背景との関係の順に検討した。

結果と考察：

1) 養育行動スクリーニング用項目

表1は3歳児健診来所者全員の養育行動5項目に関する得点率を示している。いずれも90%以上であり、この結果はこれらの項目が3歳児をもつ家庭に時代と地域にかかわらずかなり

一般的に行なわれている行動であることを再確認した。この中で最も得点率が低かったのは“昼食の時間を決めていない”であり、次いで“過去6カ月以内に子どもをつれて出かけたところがある”であった。

2) スクリーニング用5項目とJHSQとの関係

スクリーニング用質問紙とJHSQを同時に実施できたものは32名あった。JHSQによって正常と評価された29名(N群)と疑問と評価された(Q群)との間には次の項目につき有意差があった。N群はQ群に比べて“子どもが何か良いことをした時にほめる”ことが多かった。次に、5項目の中で得点率の最も低かった昼食の時間に注目し、これを決めていないK群と決めていないN-K群との間でJHSQの各項目の得点率を比較すると、両群の間には次の項目で有意差があった。すなわち、“夕食の30分前でおなかがすいていると食べ物を与える”のはN-K群の方がK群よりも多かった(得点率16.7 vs 61.5)。さらに、スクリーニング用5項目の個人得点を算出し、5点群と4点以下群との間でJHSQの各項目の得点率を比較すると両群の間には“夕食30分前・・・”の対応に有意差が認められた。5点群はその他群と比較して“夕食まで待たせる”ことがより多かった(66.7 vs 12.5)

3) スクリーニング用5項目と背景との関係

アンケート実施者497人のうち個人毎の5項目の得点率は5点: 81.1%、4点: 17.2%、3点: 1.9%であった(図1)。これらの得点と被検児の背景との関係を検討すると5点群はその他群に比べて①育児方針を父母で決定する、②育児の情報源を夫や保母に求め、マスコミに求めることが少ない、③同年齢の子ども

を持つ友達をもっている、④子どもの良い点や気になる点を記入しているなどが有意に多かった。また497人をK群とN-K群に分けて両群の背景を比較すると、K群はN-K群に比べ①保育所に行っている、②既往疾患・けががなし、③父母で育児方針を決めている、④育児の情報源を夫や保母に求め、マスコミに求めることが少ない、⑤同年齢の子どもをもつ友達があるなどが有意に多かった。

これらの結果は養育行動スクリーニング用5項目の成否がJHSQの成績と関係すること、特に“昼食を決めていない”か否かの項目は生活のリズムが確立しているか否かを知る手がかりとなることを示唆している。また、5項目の得点率は被検児の背景とも関係しており、4点以下の者をリスク群として適切な相談・指導に応じる必要性が認められた。

まとめ: 幼児の家庭養育環境スクリーニング用質問項目として5項目を提案し、その妥当性を3歳児健診に訪れた497人を対象として検討した。その結果、第1次スクリーニングの1つの手段として活用されることが明らかになった。

文献

- 1 上田礼子 日本版デンバー式発達スクリーニング検査 - JDDSTとJPDQ - 医歯薬出版 1980
- 2 上田礼子 日本版・乳幼児の家庭環境評価法 医歯薬出版 1988
- 3 上田礼子 幼児の家庭刺激に関する研究(2) - 地域差を中心に - 保健の科学 30(1)、58~63 1988

表I 養育行動5項目の得点率

項目	得点率 %
よいことをしたときほめる	99.6
子どもに歌をうたってやる	99.2
困っている時やり方を教える	98.5
過去半年間につれていったところがある	91.1
昼食に時間を決めている	90.6

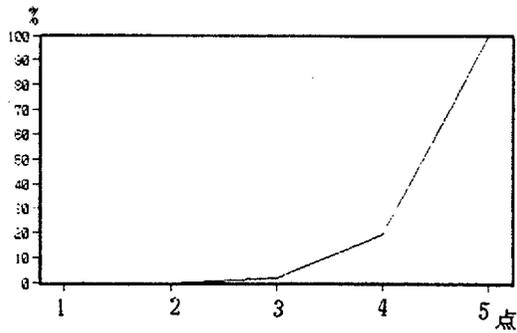


図1 5項目得点累積率



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:都市化にともなって価値観が多様化し、子どもの発達上必ずしも好ましくない家庭が出現してきている。本研究は養育環境としてリスクの高い家庭を見つけ支援に結びつける一つの手がかりとなる質問項目の検討を行った。その結果これらの項目はかなり実用性の高いことが明らかになった。